

朝日新聞 2009(平成21)年8月25日(火) 佐賀版 ぶらりミュージアム



県立博物館・美術館

佐賀市久保泉町川久保にある標高55.5㍍の熊本の山頂付近から61年に発見された。舟形石棺は直径30㍍ほどの円墳に直接埋め置きされており、福岡県八女地方産の阿蘇凝灰岩を3室に削り抜いた身とふたからなり、内部は赤く塗られている。身とふたの両端に縄掛け用の円状の孔がある。

中央の室には2体の人骨が埋葬されており、うち1

くまもとやまふながたせつかん
熊本山舟形石棺

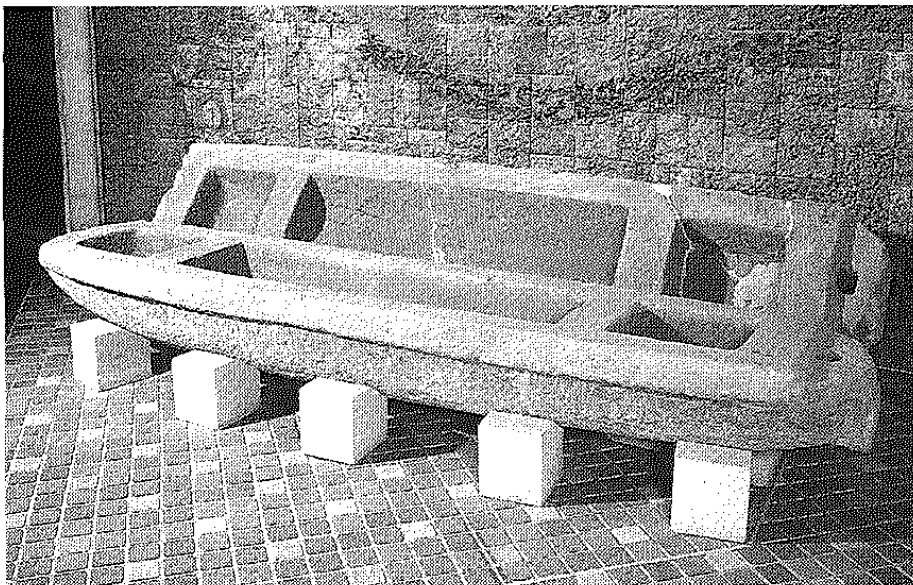
八女産の石材用いた特異な構造

体は削り出しの枕に頭が載せられていた。この室には鉄剣2本、鉄刀1本が副葬されており、両側の室には葷綴式の短甲、銅鏡、管玉、ガラス小玉などの副葬品が多数収められていた。

八女地方産の石材を用いた特異な構造の大型石棺であることから、5世紀前半ごろのこの地域における有力豪族の存在を示すとともに、筑後地域との密接な関係がうかがえる考古資料でもある。

(県立博物館・美術館)
学芸課長 森田孝志

メモ 佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。月曜(祝日なら翌日)と9月1日～18日休館(31日は除く)。



くまもとやまふながたせつかん
熊本山舟形石棺 古墳時代中期(5世紀前半ごろ) / 身の全長4.3㍍、最大幅0.88㍍ / 国指定重要文化財(考古資料) / 佐賀市教委所蔵